

はじめに

はじめまして。この本を手にとってくださいました皆さま、ありがとうございます。

「ピアノを弾ける人はカッコいい」

「ピアノを習うことは良いこと」

ピアノを弾けることや習うことに関して、良い印象の方が多いいのではないのでしょうか。

わたしは、現在、青森市で小さなピアノ教室を開いています。ピアノとの出会いは、いわゆる「宿命」です。ピアノとともに生きていくレールが生まれたときから敷かれていました。だからといって、特別な才能を持っていたわけでもありません。

おそらく、ピアノを弾くためのセンスを少しだけ多く持って生まれてきたことと、ピアノが身近にある環境で育つたことから、ピアノを弾くことが得意となったのでしょう。「ピアノをやめたらどんなにラクになるだろう」「ピアノ以外にもできることがあるのかもしれない」とこれまでに何度も思いました。

しかし、ピアノとともに生きる以外の選択肢がありませんでした。自分に与えられた道を紆余曲折しながらも、人に教えることが好きだったこと、ピアノを弾くことが得意だったことを融合させて、音楽（主にピアノ）を指導することになったり着きました。現在は、生徒さんや保護者さまにも恵まれて教室を運営しています。

ピアノを続けたことで、ピアノの技術面はもちろんのこと、人間的にも成長ができ、わたしの人生が彩り豊かなものになったことは確かです。特に、大きな影響を与えてくださった「ピアノの育ての母」がいます。今は、天国から見守ってくださいています。

その先生と出会ったことで、ピアノの技術力を高められ、努力をすること、強い精神力、忍耐力を身につけることができ、心を鍛えられました。先生がわたしに残してくださいましたことをより多くの生徒さんたちに伝えたいと思いながら指導をしています。ピアノの技術面だけでなく、明るい未来を歩んでいけるような生徒さんを育成したいと考えています。

これまでに学校での教員経験があり、多くの生徒さんたちと接してきました。また、結婚・子育てをしたことで、物事に関する視野が広がりました。たくさんの方々との出会い、良くも悪くも経験を重ねたことで、一人の人間としても成長できたと思います。与えられたピアノとともに生きる道を歩んだこと

に、疑問をもつことが多くありました。けれども、最近になってようやく、わたしの「天職」かもしれないと思えるようになりました。経験をアウトプットしながら、工夫を重ね、思いついた発想を大切に、時にはインスピレーションを頼りに「わたしらしく指導をすること」をモットーにしています。

この本には、わたしの幼少期から現在のピアノ教室に至るまでの経緯、そしてピアノ（音楽）指導者として目指す生徒育成や実践していること、これからも持ちつづけたいことを書いています。人と同じようなことや型にはまることを好みません。

個性が強く風変わりな指導者と思わせるかもしれませんが、生徒さんは、わたしの指導で成長を日々見せてくれます。また、保護者さまからも温かいお言葉をいただき、卒業した生徒さんからも指導者として誇りに思うお言葉をいただいています。

お子さんがピアノを習っている方、これからピアノを習おうと考えている方、さまざまの方がいらっしゃるかと思いますが、もしかしたら、音楽分野以外に自分の好きなことや得意なことを職業に生かしたいと思っている方もいらっしゃるかもしれません。この本を読み終えたときに、ご自身に必要なヒントを一つでも見つけてくださると嬉しく思います。

わたしが、ピアノとともに生きてきた証を目に見える形で残すこと、そしてピアノが教えてくれたことを多くの方々にこの本を通して伝えられたらと思います、本を出版することになりました。最後まで、お付き合いただけたら幸いです。